

松本莊一郎 毛利重輔 高橋新吉 田口卯吉 林徳  
 右エ門 大倉喜八郎 澁澤榮一 林資徳 西村虎四  
 郎 (登) 義真 伊集院兼常

六月廿八日 朝午倉三野村同道松方大臣邸ヲ訪  
 フ用向ハ過日内向ヲ得タル兌換銀行券條例  
 改正草案ノ事也右草案ニ依ルハ政府ニ銀  
 行より三千萬圓ヲ借り入レ十年以内ニ於テ  
 無利子ハ其前ハ二歩ノ割ニ又國庫金取扱料  
 ヲ不下渡トノ意見也其割合製表田尻松尾兩  
 人ニテ造レルモノ也而シ其豫算ヲ以至念決 (急カ)

定セント云フニ在リ依之其不當ヲ述ベ而三

日間老按ノ猶豫ヲ乞フ大臣兼諾ス

(補外書込上ニ「ト記ス」)

六月廿九日出勤三野村老母昨夜病死ノ事也帰

途為悔同氏ヲ訪ヒ又金聲学校集會ニ竹出席

又

六月三十日三野村氏地堂葬送ニ竹本店小梅村

真誠寺ニ會葬ス○出勤

七月一日日曜勝先生井上伯ヲ訪フ○午後奈良

原送別會ニ竹伊集院兼常宅江被招

七月二日出勤夜鈴木氏來ル來ル五日出立中國

九州四國巡回スト云フ

七月三日出勤

七月四日出勤

七月五日出勤

井上伯ノ招キニ乙鳥井阪同人郊

晚餐アリ英國ペルメルカテト新聞記者

ノルマン氏招々ノ為ナリ

七月六日朝大藏大臣江兒換券改正按二竹紙幣

發行等豫算表ヲ出ス

夕刻大隈伯ヲ訪ヒ十五銀行ヲ以官設鐵道拂

下ケ懸掛を述フ

七月十五日日曜此日大井所有古書画一覽ノ為

ノ知人ヲ招キ夕リ其人数

勝先生吉井宮内次官税所奈良縣知事蜂須賀

茂昭藤堂高潔松方大藏大臣井上宮中顧問官

町田久成等也

諸入費ハ余自作セリ

七月十六日出勤

七月十七日 左

付午前時禮服着用出頭有之旨

申来リニ付宮内省江罷出候所

辨旨ヲ以テ被達正五位宣旨ヲ賜ル

直ニ宮内省書記官局江罷出御禮申上帰途松

方大藏大臣黒川總理大臣ニ御禮廻勤午後紅

紫館ニ日本銀行取引先十五名程相招テ酒

宴ノ儀ノ有テ故銀行ニハ出勤不致候也

（明書）ニシテ〇トスル

明治廿一年九月廿九日

御用有之ニ付午前特禮服着用出頭可有之旨

申来リニ付宮内省江罷出候所

特旨ヲ以テ被進正五位宣旨ヲ賜ル

直ニ宮内省書記官局江罷出御禮申上歸途松

方大藏大臣黒田總理大臣ニ御禮廻勤午後紅

葉館江日本銀行取引先ヤ五十名程相招ヤ酒

宴ノ催シ有之故銀行ニハ出勤不致候也

(欄外書込上ニ〇ト記ス)

十月十二日大島貞益 江リスト經濟書翻譯托シ

譯料十行ニ十字一枚壹圓ニ大略六百枚前後

ヲ以テ壹ヶ年間ニ仕上ル見込ナリ

十二日朝日々新聞紙ニ野澤離一請求ニ正

金銀行臨時惣會開設トの事也近頃同行ノ風

評屢々耳底ニ達ス野澤ハ神鞭長懇意ナレハ

其情况ヲ尋クレヨト同氏ニ一書ニ郵送ス

○松倉長来リ大井内部ノ状ヲ告ク余明日立

花氏ヲ尋ヌル事ヲ約ス

○本日午後十五銀行の岡島冬道ヨリ被招精  
 養軒ニ晩食ス肥田瀆五郎長同席ノ上先日中  
 岡島ニ余カ愚存ヲ申入リタル東海道鐵道ヲ  
 十五銀行ニ拂下ケ之一事也余頃日未財政整  
 理ノ一部分として大隈井上松方諸大臣ニ説  
 キタル所ナリ佐藤大臣ニ内話試ミンストヲ  
 托諾シテ去ル

(欄外書ニ上ニ○トニケ所ニ記ス)



十月十四日朝高輪伊藤伯ヲ訪フ暫ク寛話ス余  
 カ意見政府所持鐵道悉皆十五銀行ニ拂下レ  
 ハ同行從來ノ營業ヲ堅固ニシ且政府ノ財政  
 上ニモ都合ヲ得ルナラント繰述ス伯曰ク政  
 府所有ノ鐵道ハ三千六百萬圓也而<sup>平均</sup>平均ノ  
 收利四歩ニ上ラズ十五銀行ニ於テ四歩ノ收  
 利ヲ以テ華族ノ生計ニ充ルヤ否其計算ヲ不  
 試ハ十五銀行ニおろて如何ンカ且鐵道拂下  
 ケニおろてハ山田山縣等不同意ヲ唱フルナ  
 ラン然レトモ之レ西洋輸入ノ一思想ニ過キ

又余ハ拂下ニ異存ナスト又大槻修ニ編集ノ  
 西洋史八本ヲ指出ス残りハ尚取急キ編集ノ  
 事ニ盡カスル故暫ク御猶豫ヲ願フト申述夕  
 リ

大井ニ集會アリ鈴木佐和来會ス

(欄外書込) 上ニ「〇」ト記ス

十月十五日出勤懸第十五銀行ニ立より間島冬

道ニ出會伊藤伯ト内話ノ模様ヲ談ス

十月十六日朝高島加右門王脱之来ル同人云フ昨日伊

藤伯ヲ訪ヒタルニ君来訪アリタル由ヲ同伯

ヨリ羨リタリト

十月十七日新嘗祭

日本銀行競舟クラ一部ニ付橋場江出席ス

○鶏血石印財材也一面代金五十五圓固旋料三丹

多罪屋ヨリ買夏銀行方用谷江可遣分

十月廿二日出勤御料局長官肥田廣五郎来リ内

議ニ兼々余カ盡カスル所ノ東海道鐵道ヲ十

五銀行江御拂下之義内閣各位ノ過半同意ノ  
 申アリ就テハ帝室ニ於テモ御加リ相成候様  
 致度候所第一ニ金策ナレハ金一千五百萬圓  
 年五分之利ノ利足十五年賦返済として日本  
 銀行ヨリ加し上之義出来間敷哉と内談アリ

(欄外書也 上ニ「<sup>7</sup>〇<sub>レ</sub>ト記ス)

十月廿三日今朝警視總監三嶋通庸病死セリト

十月廿六日出勤菅公ノ經切代價六圓定家御日

參軸物四圓五十錢 = 求八

鐵雲山

房文日誌

第

二十四

伊中安中之人木名

遠藤敬止

北岡文兵衛

目賀田種太郎

村田一郎

神鞭

勝平安房海舟

難波忠一

橋本

杉田

森和禮

南保

加藤

從齋

中村元雄

池田謙齋

川崎

八右門（節工也）

新島襄

松倉重恂

鈴木大亮

伊達宗亮

原大郎

大越成徳

富田恒一

首藤隨三（富嶽學會議員）

遠藤庸治

勝又五

佐藤文輔

伊達基寧

伊達寧祐

高木貞作

橘性不明成考

松浦五甫

藤井三郎

松隣兄

谷謹一郎

佐藤素拙

松平正直

樋口忠一

大槻文彦

横尾東作

佐和正

伊達讓堂公

伊達從二位

井上勝之助

大立目謙吾

奈良原繁

松方正義大藏卿

吉原重俊

小崎弘道

廣澤安任

川上左七郎

郷純造

吉井友實宮内大臣

三野村利助

木才一

高岡人

正村五平

旅館

安川嘉兵衛

木村香雨

佐久間健壽

与倉守人

濱田市助

藥師

金原信近

遠藤謹助

伊藤巳代治

遠武秀行

伊賀陽太郎

多田維尾

林新次郎

太田卓三

前田長

前田利光郎

前野

松浦

山東

小野清

田中

大河内

錦倉八幡官司

笠崎

中嶋從成

佐藤三之助

高崎正風

三好退蔵

金井之恭

森村

小林

古筆了悦



川崎 久傳 三 米

市河 三兼

大隈 大 重信

鈴木 良三

松尾 臣善

永富 謙

田村 邦栄

福地 源一郎

岩崎 弥之助

川田 小一郎

浪澤 栄一

大鳥 圭介

伊達 菊君

熊谷 教成

柴田 隆

原 善三郎

富田 真治

益田 孝

森岡

石原

渡邊 幸兵衛

村上 元磨

相馬 永胤

三島 億次郎

田口 卯吉

島津 久光

協平 聖也

園田 孝吉

立花 種恭

川村 清雄

總理大臣

黒田清隆

黒川

関野富山

十文字

岩渕

大槻直信

小笠原基幹

小倉長太郎

鈴木太郎作

芳賀真咲

アレキサントル女

伊藤博文總理大臣

渡邊茨基

外山正一

トレンチキ

外山箕作

矢田部穂積

市原盛宏

高木三郎

印東

竹内壽貞

宮嶋宗久

税所治篤

高橋新吉

西村虎四郎

伊達直知

石母田宗四郎

太田費安

松本虎之助

折田彦市

服部 一三

手島 精一

ホイト子 一

國分 懿

石川 小膳

梶 野梅太郎

湯地 定基

安田 善次郎

大條 季治

徳川 春宮

川村 傳衛

一川 研三

末松 謙澄

牧野 伸空白顯

河田 熙

三田 三佑

久保田 貫一

西川 鐵二郎

星野 有信

小島 宗光

松浦味増方 五郎助

岡野 善次郎

岡橋 治助

弘世 助三郎

花房 義質

島田 三郎

キヨソ子

山田 樂

中島 信行

加藤 斌

中村道太

大槻修三

谷村

茂木惣兵衛

井上馨 顧問官

上野景範

小野光景

朝山

中川龜三郎

山尾庸三

ヘルケ

菅原龍吉

河瀬

和達亨嘉

高橋是清

吉田三郎

松本莊一郎

毛利重輔

石原盡貫

陸奥宗光

荒木寛畝

ワツソソ

寺島 顧問官 (伯)

大井從五位公

吉田清成

中井新右門

林 徳右門

大倉喜八郎

林 資徳

義真 名也

伊集院兼常

田尻稻次郎

ノルマソ

蜂須賀茂昭

藤堂高潔

町田久成

船譯者

大島貞益

野澤離一

肥田瀆五郎

大臣

佐藤

山縣有明

山田

大槻脩二

(三)

間島冬道

高島加右門

(工殿)

三島通庸

□□□-□□

Manila  
Cebu  
Davao

Manila  
Cebu  
Davao

Manila  
Cebu  
Davao

5-5.2.19

郵便番号 一〇三

東京都中央区日本橋兜町一丁目三番地  
(日本橋局区内)

**YRI**  
**山一証券経済研究所**

電話東京(03) 六六〇局五二二番(受付台)

有田龍之竹日記(生)

1 册 19 1 21

2 册 15 1 18

洪 沢 輝 二 郎

右 右 借 許 可 也

116 5 2-19

川崎市生田七四二三ノ三一  
電話(電)九六一六一〇  
郵便番号二一〇一四